

源兵衛川「かんがい遺産」に

16世紀建設 富士溶岩の石積み

三島の清流

三島市の市街地を流れる「源兵衛川」が、「世界かんがい施設遺産」に登録された。9日の県の発表によると、県内では2014年に登録された梶野市の深良用水に続いて2件目となる。源兵衛川の関係者は「三島自慢の清流として、これからも保全に努めたい」と話している。

90年代 官民一体で水質改善



三島市の市街地を流れる源兵衛川

世界遺産の制度は、国際かんがい排水委員会（ICID）が14年に創設した。

保全などにつなげるため、歴史的・技術的・社会的に価値のある施設を登録する。申請要件は、建設して100年以上、農村発展に大きく貢献—など。

た。護岸は富士山の溶岩による石積みで、当時としては先進的だった。流水は富士山の雪解け水のため冷たく、稲作に適するよう、水路幅を広く、水深を浅くして水温の上昇を図った。都市化で1960年代には水質が悪化したのが市民と行政が一体となり、90年代には清流を復活させた。現在、市内の142軒の水田を潤す。市と、管理者の中郷用土地改良区、NPO法人・グランドワーク三島は昨年10月、世界登録を目指し、連名で申請を行った。しかし、同11月の選定結

果は「保留」。その後、追加資料の提出などを求められていた。創設後3回目となる今回の選定は、8日にタイで開催されたICID国際執行理事会の席上で行われた。国内では源兵衛川など14施設が選ばれ、これで計27施設になった。同NPOの渡辺豊博・専務理事(66)は「今も残る建設当時の護岸や、農業用水と都市用水の機能が評価された。海外では水質汚染に悩む用水が多く、清流を復活させた源兵衛川はモデル例として注目されている。よみがえった流れを次世代に守り伝えたい」と話した。